

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である

学校名	唐津市立高峰小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・竹木場小学校の学校教育目標「夢を語って、夢を追う児童生徒の育成」のもと、3校統合に向けた合同研修や推進会議を実施し、児童の交流や教職員の情報共有を通して共に研鑽を積んだ。 ・学力向上については、単元等のまとまりを各担任が意識して取り組んだ。児童の実態から、教科だけでなく、特別活動等でも主体性を高めるための取組を実施した。児童に出番と役割を与え、承認することで、達成感や成就感を感じさせることができた。つつある。 ・業務改善については、学年や教科のデータ共有や中学校からの乗り入れ授業で改善が進んでいる。また、時間を意識した働き方も浸透しつつあるが、年休取得推奨については課題が残る。 ・3校統合により地域や保護者とも連携・協力をしていく地盤作りに取り組む必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	自ら求めて動く「高峰っ子」の育成 「主体性」・「思いやり」・「協働」・「自己発信」
----------	--

3 本年度の重点目標	①主体的な学びの充実と確かな学力の育成（授業改善、家庭学習） ②児童の主体性や思いやりの心、協働性を育む学校行事や地域体験活動の活性化 ③業務改善と働き方改革の推進 ④地域に開かれた学校づくり（授業公開、地域体験活動、各種行事、学校便り等）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学びの充実に向けた授業改善 ・家庭学習の充実	○主体的な学びの充実に取り組んだと回答した教員80%以上 ○家庭学習の目安の時間(内容)以上取り組んだと回答した児童80%以上	・校内研修等において「唐津の学びスタイル」や場・活動の設定の工夫について共通理解と共通実践をする。 ・校内研修等において発達段階や個に応じた家庭学習について検討する。					研究主任 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・挨拶運動等を推進し、児童の良さを確信しを称賛する。 ・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解のもと言葉遣いの指導をし、授業中は「さん呼び」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。					道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・児童に毎月、生活アンケート(月のこころ)をとり、気になる事例については直ちに聞き取りを行い、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・保護者やSC、SSWと連携を行い、教育相談体制を充実させる。					生活主任 養護教諭
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童70%以上	・総合的な学習の時間や特別活動等で児童が主体的に活動する場面を設定したり、実行委員などの自主的活動を取り入れたりするなど、出番や役割を与え、よさや頑張りを承認したり褒めたりする。 ・特別活動を中心にキャリア教育を行う。					特別活動担当
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で、運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上	・一日1時間以上の運動を目標にして、15分休みや昼休みの外遊びを勧める。 ・「スポーツチャレンジ」を推奨することで、運動することの楽しさを味わわせる。					体育主任 養護教諭 栄養教諭 食育担当
	②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②「健康に良い食事をしている」児童80%以上	・給食だよりの発行 ・保健だよりの発行 ・食育資料の提供 ・教科等における食に関する指導の取り組み					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を定時退勤日とし、その他も退勤の目安となる時刻を設定する。 ・長期休業期間を中心に管理職が年次休暇取得を推奨するとともに普段から年次休暇を取りやすい雰囲気をつくる。					教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を年2回以上実施する。 ・随時情報共有を行い、必要に応じてケース会議を開催する。					特別支援教育 コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別活動の充実	○児童の主体的活動の活性化	○児童会を中心として学校生活を充実させようと主体的に行動していると肯定的に回答をした児童80%以上	・児童会による学校行事の実施する。 ・実行委員など児童が主体的に取り組む活動の充実させる。					特別活動担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------